

議事（１）基本計画（素案）について

委員名	ページ 番号	意 見	事務局回答	対応
木村元彦 委員	P60,61	第６章の検討プロセスについて、実際にどのような形で進めていくのかが、文章だけでは具体的に分かりにくい。市民の立場から見ても分かりやすい説明が必要ではないか。	- 地域ごとの検討プロセスについては、後にご説明するスケジュールに基づき、本年度中の答申を目指している - 財源や土地利用など、教育委員会単独では決定できない事項については、現時点では基本計画に十分に記載できていない。市長部局と調整の上、可能な限り早い段階で公表していくことを考えている。 - まずは基本計画の周知が第一段階となり、その後、地域ごとの検討プロセスに入ることを想定している。	ご意見を踏まえ、第６章全体を加筆、整理しました。
石井委員	P2	基本計画策定の目的について、「フルスパックで」という表現がありますが、何を指しているのか分かりにくい。		基本方針でも使用している表現ですが、全体調整の中で言い換え等について検討します。
	P5	過小規模校の一部が複式学級になる可能性がある」と記載されていますが、神奈川県では複式学級を設けない方針だったと記憶している。確認が必要ではないか。	- 複式学級の記載については、県のスタンスは承知しているが、国の基準を踏まえた場合、将来的に該当する可能性がある規模として想定した表現となっている。 - この点については、誤解を招かないよう表現を再検討する。	「国の基準において、」という文言を加筆しました。

	P6	・ 児童生徒数推計について、片浦小学校の定員との関係で、示されている数値の根拠が分かりにくい。 ・ 定員を減らすという誤解を招く可能性もあると思う。	・ 片浦小学校の推計については、小規模特認校としての特性や地域の実情を踏まえた数値設定としているが、こちらも再度精査が必要だと考えている。	・ 片浦地域の児童数を（）で併記しました。
	P7	・ 「多様な児童生徒の増加」という表現について、児童生徒は本来多様な存在であり、特別支援学級に在籍する児童生徒を指すのであれば、そのように明記した方が分かりやすいのではないかな。 ・ 小田原市は必要に応じて特別支援学級を設置している点が大きな特徴であり、これは積極的に評価されるべき点だと思う。	・	・ ご意見を踏まえ、第２章全体を整理しました。
		・ 個別指導員とあるが、実際には個別支援員ではないか。	・	・ 修正しました。
	P8	・ 支援室の設置状況や、フリースクールの状況、外国からの児童生徒への配慮についても触れてよいのではないかな。	・	・ ご意見を踏まえ、第２章全体を整理しました。
	P9	・ 教職員配置について、欠員が生じている現状や、人材確保が難しくなっている実態を踏まえた表現が必要。 ・ 加配定数について、市でも一定の加配を行っていると思うので、それは記載した方がよいのではないかな。	・	・ ご意見を踏まえ、第２章全体を整理しました。

	P14	・ 支援に関する記述では、学校規模と個別支援員の配置が直接結びつくような表現になっている点が気になる。	・	・ ご意見を踏まえ、第2章全体を整理しました。
	P15	・ 「連携しやすい体制」という表現についても、小規模校にも良さがあるため、表現の精査が必要だと思う。	・	・ ご意見を踏まえ、第2章全体を整理しました。
	全体	・ 全体として、支援を要する児童生徒という言葉の使い方について、再検討が必要ではないか。	・	・ ご意見を踏まえ、第2章全体を整理しました。
富田委員	第2章 P5～	・ 「現状と課題」の中で、課題が十分に見えにくい部分がある。	・	・ ご意見を踏まえ、第2章全体を整理しました。
	P14	・ 「新しい学校が目指す姿」を読んで初めて課題が明確になる構成となっているため、現状と課題の整理の仕方については再検討が必要ではないか。	・	・ ご意見を踏まえ、第2章・第3章全体を整理しました。
		・ 「支援を要する児童生徒」という表現が繰り返し使用されているが、教育的観点から適切な言葉かどうか、改めて整理すべき。	・	・ 「特別支援学級に在籍する児童生徒」に修正しました。
中谷委員	P16,17	・ 5つの項目の中で、小中一貫でなければ実現できない内容がどこなのかが分かりにくい。 ・ 特に2番の特色については、小中一貫でなくても可能ではないかという印象を受けた。	・ 小中一貫教育については、当初は施設整備の議論から始まった経緯がある。検討を重ねる中で、教育の目指す姿を軸に再整理してきたところで、その結果として、小中一貫教育が一つの選択肢として浮かび上がってきたものであり、施設配	・ ご意見を踏まえ、第2章・第3章全体を整理しました。

			置ありきではないという点は、今後さらに丁寧に説明していく必要があると考えている。	
		・ 保護者の中には「一度導入したら元に戻せないのではないか」という不安を持っている方も多く、その不安をどう払拭していくのが重要だと感じる。	・	・
		・ 中学校数が増える点については、人口減少の中で疑問を持たれる可能性が高く、どのように説明していくのか整理が必要だと思う。	・	・
木村元彦 委員	P16,17	・ 独自教科の導入や、学力に応じた学習、特色ある教育活動を行いやすくなる点などは、より具体的に記載してもよいのではないかな。	・ 小中一貫教育による9年間の連続した学びや支援体制の構築は大きな意義がある。ただし、基本計画にすべての詳細を盛り込むことは難しいため、どこまで記載するかについては整理が必要だと考えている。	・ ご意見を踏まえ、第3章全体を整理しました。
柳澤委員 長	P16,17	・ 本来であれば、教育内容の議論が先にあり、その結果として施設整備を検討する流れが望ましいと考えている。 ・ 市民に対しても、なぜ小中一貫教育を導入するのか、その経緯やメリットを丁寧に説明する必要があると思う。	・	・ ご意見を踏まえ、第2章・第3章全体を整理しました。
		・ 4・3・2制のカリキュラムイメージについては、義務教育学校と誤解される可	・ 導入の経緯、メリット・デメリット、カリキュラムのイメージについては、次回	・ ご意見を踏まえ、第3章全体を整理しました。

		能性があるため、表現には注意が必要だと感じる。	までに整理し、誤解のない表現となるよう修正する。	
木村秀昭 委員		最終的に答申を纏める必要がある。小中一貫校を開校した際に出る問題というのはまだあると思うので、それについてはまた議論する必要があるのではないか		第6章の中で提示する、基本計画公表後の検討プロセスの中で記載します。
竹内委員	P16,17	- 人口減少が進む中で、新しい学校づくりを考える際、学校の総数や規模を見直すことは避けられない現実だと思う。 - その中で、小中一貫教育は一つの可能性として位置づけられるものであり、人口減少という前提条件を、計画の中でもより明確に示す必要があると感じた。		ご意見を踏まえ、第2章・第3章全体を整理しました。
	P29	学校規模の問題は、地域だけでなく、教職員の労働環境の観点からも重要であり、現場の実感を反映した説明が必要だと思う。		ご意見を踏まえ、第2章・第3章全体を整理しました。
石井委員	P29～31	- 教職員の労働環境については、非常に厳しい状況にあり、欠員が常態化し、多様なニーズへの対応も限界に近い状況。 - 一定の規模を確保し、チームとして学校運営ができる体制には意義があると感じている。		ご意見を踏まえ、第2章・第3章全体を整理しました。

		・ 加えて、職員が安心して働ける環境づくりが、結果的に子どもたちの教育につながるという視点も重要だと思う。		
富田委員	P29～31	・ 中学校の現場においても小規模校には良さがある一方で、業務負担の集中や対応力の限界が課題となっている。 ・ 保護者や地域からの相談対応においても、職員が捕まらないといった状況が生じており、一定規模の確保が必要だと感じている。	・	・
竹内委員	P29～31	・ 学校が減少した場合、その跡地をどのように活用していくのかという点は、学校単体の問題ではなく、まちづくり全体の問題であると感じる。 ・ 防災や地域コミュニティの拠点としての役割も含め、都市計画の視点から整理していく必要があり、学校に過度な役割を担わせすぎることは、結果として学校側の負担になるのではないか。 ・ 通学距離の問題もあるが、地域にバスを走らせる等は経済的な問題であり、まちづくりの問題となるため、行政の在り方と整理する必要があるのではないか。	・	・ 第6章で整理します。
柳澤委員長	P19	・ 学校を地域に開くことや、他の公共施設との複合化、連携といった視点について	・ 施設整備の考え方としては、地域利用エリアを体育館付近に設け、セキュリ	・ 第6章において、今後の庁内検討における主要論点として整理します。

		記載が弱い気がする。もう少し具体的な記載があってもよいのではないか。	ティを確保しながら地域に開放することを前提としている。 ・ 教職員の負担軽減を大前提とし、運営面についても配慮する必要があると考えている。	
久田委員	第2章 P5	・ 市民の皆様に説明することを考えると、もう少しわかりやすい表現に出来る部分があるのではないか。 ・ たとえば、なぜ学校再編が避けられないのかという決定的な理由を、もう少し明確に示す必要があるのではないか。	・ 現状と課題の整理や、財政に関する表現については、分かりやすさを意識して再検討したいと考えている。	・ ご意見を踏まえ、第2章・第3章全体を整理しました。
	P48	・ 財政部分についても、単なる削減ではなく、教育への再投資であるというメッセージが伝わる表現にするとよいのではないか。		・ ご意見を踏まえ、第2章・第3章全体を整理しました。
遠藤委員	P2 P5 等 P44,45	・ 地域に対しての時間軸が見えにくい。 ・ 方針は10年後、将来推計は40年後まで、スケジュールは24年後と、複数の時間軸が示されており、少し分かりにくい印象を受けた。 ・ 例えば、40年先を見据えた人口推計をもとに、24年程度で施設整備を進めるのであれば、その関係性を整理して示した方がよいのではなか。 ・ 地域との関係や跡地利用についても、どの時間スパンで考えるのかを明確にする	・ 将来推計としては40年程度を見据えつつ、実際の整備や検討については一定の区切りを設けて示すなど、表現方法について検討したいと考えている。	・ 第4章の学校配置における将来の学級数の時点については、30年後から24年度に修正し、全体推計としての40年、計画としての24年の2軸に整理しました。

		ことで、市民にとって理解しやすくなるのではないか。		
内山副委員長		・ 検討内容によっては学校だけの問題ではない部分もある。教育委員会だけでなく、庁内全体と協力する必要がある。 ・ 答申としてどこまで入れられるかはわからないが、市全体で取り組んでいくべき点だと示せばよいのではないか。	・	・ 第6章及び付帯意見の中で整理します。
木村秀昭委員	P19	・ 学校がなくなること自体よりも、その後、地域の居場所がどうなるのかが一番の不安。 ・ 学校が地域活動の拠点となっている地域も多く、代替となる施設や場について、ある程度の見通しが示されるだけでも、地域の受け止めは大きく変わると思う。	・ 答申案の中でどこまで記載するかは難しい点だが、市としてその姿勢を示すことは重要だと感じている。	・ 第6章の中で整理します。
木村元彦委員		・ 市長の新春インタビューで、跡地活用についての発言があった。跡地活用について、計画に乗せるとしても、答申としてどこまで記載するかは検討の余地があると感じる	・	・ 第6章において、今後の庁内検討における主要論点として整理します。
石井委員	P18,19	・ 地域との連携を進めるのであれば、地域の実態を踏まえた議論が必要だと感じる。 ・ インクルーシブ教育についても、現在すでに取り組んでいる内容と、新しい学校	・	・ ご意見を踏まえ、第2章・第3章全体を整理しました。

		づくりによってさらに進めていく部分を整理して示すと、分かりやすくなるのではないか。		
遠藤委員	P11	・ 地域が学校をどう使ってきたかについても記載が必要ではないか。	・	・ 第2章、第6章で言及できるよう検討します。